

時代の変化に対応する心構えを持つ

～シュプール40号発刊に当たっての所感を含めて～

会長 坂井和夫

本年度は、昭和27年に北海道一般スキー指導員会として創立以来60年の記念すべき節目の年を迎えたわけであります。本年度の集いを「創立60周年記念」の冠を付し、多数の会員各位の参加を得て、盛会裏に開催できましたことは、ひとえに関係各位のご支援の賜であり、衷心より感謝をし、厚くお礼を申し上げる次第であります。

また、本協会の機関誌である「シュプール」も回を重ねて40号を数え、本協会の情報伝達のみならず、会員の主張や各支部の様子が伝えられる情報誌として、貴重な役割を担って今日まで発刊されてまいりましたが、今後もその果たす役割はますます重要になってくるはずであり、更なる内容の充実が期待されているところであります。

本協会は創立以来、「会員の親睦と交流」を図ることが主な活動で「シュプールの発刊」や「全道の集い」を活動の中心に据えてまいりました。

しかし、最近の情報として北海道スキー連盟の法人化に伴う組織改革の中で、新しい機構団の中に関係団体として、位置づけされる見通しであることが伝えられております。

従って今後は、スキー連盟組織内での位置づけが変わることで、責任を伴う事業への参画も予想されることになります。

現段階では、まだ先行き不透明で今後どのような形になるかは分りませんが、仮にこのようになった場合は、会員の中に少なからずあった「会費を払ってシュプールを買わされるだけのスキー指導者協会」から、スキー連盟内での位置付けが見えてくることで、会員としての意識



も変わってくるものと考えられます。

即ち、今までのような内輪だけの親睦団体の領域を越えて活動範囲が広がり、しかも責任ある事業に関わることもあり得る事を、十分踏まえた今後の活動のあり方を、考えていかなければなりません。

時代の変化は、私どもスキーの世界にも好むと好まざるを問わず、影響を及ぼして参ります。

さらに、当事者である私どもも、そのことを避けて通ることは出来ません。

この時代の変化を巧みに受け入れ、活用しながら、自分たちのエネルギーとして取り込み、成長していくことが今求められていることではないかと考えております。

本協会も、今こそ時代の波をしっかりと受け止め、若い会員たちの意向も取り入れながら、先の見通しを持つつ、柔軟な度量を持って対応していくことを、創立60周年を一つの通過点として、改めて確認したいと考えているところであります。